

史学科卒業論文の提出と評価について

【卒業論文とは】

卒業論文は、これまでに培った専門知識・調査力・批判力・思考力などすべてを傾注して作成すべき、4年間の学業の集大成です。卒業論文の作成を通して、①研究史を批判的に踏まえて自ら問題（論題）を発見する能力、②必要な史資料を博捜しその価値を判断する能力、③自らの考えを論理化・体系化して文章で他者に伝える能力、これらの能力を培ってください。

【卒業論文指導用紙について】

卒業論文指導用紙（氏名・学生番号・住所・電話・メールアドレス・日東西の別・予定論題・指導教員名を記入）は本年に限り指導教員に提出することになります。卒業論文指導用紙の取り扱い、提出期日や提出方法、並びに指導方法は、教員によって異なりますので、指導教員の指示に従ってください。

【卒業論文の提出について】

1月10日前後の2日間が提出期間となります。具体的な提出日時と提出場所については、提出年度の『文学部履修の手引き』中の「卒業論文について」の記載、および11月上旬以降の掲示で、必ず確認してください。

提出期間は厳守です。2日目の受付終了時刻に遅れると、論文受理の可否は教授会で審議され（指導教員の判断ではありません）、よほど重大な理由がない限り、たとえ1分の遅刻であっても、まず受理は認められません。ワープロの使用を可としたことに伴い、パソコンのトラブルやプリントアウト時のトラブルによる遅刻が毎年必ずと言ってよいほど起きていますが、このような理由での遅刻提出が認められることはありません。卒業論文は原則として1日目に提出してください。

【卒業論文の評価基準】

受理された卒業論文については、以下の評価項目、および1月末頃に実施される面接試問の内容を総合的に勘案し、卒論指導教員がS・A⁺・A・A⁻・B⁺・B・B⁻・C⁺・C・C⁻・Dの判定を行います。

- ①論文としての体裁を備えているか（論題設定、目次、章【節・項】立て、註、参考文献一覧など）。
- ②論題に関わる先行研究について十分に収集し、批判的に読み込んでいるか。
- ③先行研究を参照した部分について、その根拠を詳細に明示しているか。
- ④先行研究の引用・要約に終始するのではなく、自分自身の判断や解釈、考えを記しているか。
- ⑤自分自身の判断や解釈、考えの根拠・論拠を明示しているか。
- ⑥史資料を適切に取り扱い、出典を明記しているか。
- ⑦論理の展開に飛躍や矛盾がなく、全体として論旨明快な構成になっているか。
- ⑧日本語表現・表記が的確で、誤字脱字や文意不明な箇所などが無いか。

なお、教員によって上記以外の要件（最低枚数、外国語文献の利用、等）も必須としている場合がありますので、指導教員の指示に従ってください。

【過去に D 評価（不可）となった事例】

- a. 註が全くついておらず、論文の体裁をなしていない。
- b. 根拠や論拠、出典などを明記せずに記述している。
- c. 註の付け方がでたらめで、参照したはずの文献について確認できない。
- d. 数冊の単行本からの引き写し（いわゆる「コピペ」）が大半を占めている。
- e. 対立する見方や見解などの内、一方のみを取り上げ、他方を取り上げていない。

【剽窃について】

上記 a～d が不可となるのは、明らかな剽窃行為であるため、あるいは剽窃が疑われるからです。

剽窃とは、他人の創作物や考えなどを自分の作として発表することで、要するに「盗作」という“犯罪行為”です。テキストや参考文献などの著作物からの無断引用も剽窃であり、引用・参考の典拠をはっきり示す必要があります。

人文・社会科学系の論文では、自分の主張の根拠とするために、信用ある著作物（学術的な研究成果）からの引用や参考が重要な役割を果たしますが、その際、どの部分が引用・参考部分であり、どの部分が自分自身によるものかを、区別して書くようにしなければなりません。そのために重要なのが註をつけるという作業なのです。

【卒業論文の体裁】

一下記は体裁の一例です。詳細は指導教員の指示に従ってください。

表紙—史学科指定の表紙（A4判、縦書き・横書き兼用。縦書き・横書きは指導教員の指示による）。

目次—章題・節題、各開始ページも忘れずに記載すること。

凡例—必要に応じてつける。

はじめに

第一章 ○○○

第一節 △△△（必要に応じて節を設ける）

第二章 ○○○（節の設定については同上）

第三章 ○○○

（以下、必要に応じて章を設ける）

おわりに

註—編集の仕方や書式については、指導教員の指導を受けること。

参考文献一覧

図表—必要に応じてつける。巻末にまとめても、個別に本文中の適切な箇所に挿入しても良い。